



# 研修便り



高知市教育研究所教職員研修班  
令和2年10月15日発行 No.143

「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、教育研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

## 児童生徒理解講座 「関わり合う学級経営と児童生徒理解」

講師：高知大学大学院 岡田 倫代 教授

令和2年8月4日

### 1 コロナ禍での子どもと教員

子どものサインを見逃していませんか？



《コロナストレスが及ぼす子どもへの影響》

心の状態

身体の状態

行動化

不安・恐怖・憂鬱・意欲を無くす・感情が出せない等

よく眠れない・頭痛・腹痛・食欲低下・頻尿や夜尿等

生活習慣の乱れ・ゲーム依存・SNSに没頭・暴言等

マスク着用によって相手の表情が読みとりにくいことへの不安や休業による様々な影響、新しい生活様式への対応等のため、教員にとって「例年どおり」が通用しない！

☞ **子どものサインを読み取る**（子どもはもやもやしていることを教員や保護者に言わない傾向がある）  
Look ⇒ Listen ⇒ Link (PFA: 心理的応急処置の考え方)

☞ **子どもを理解するためには正確なアセスメントが必要**  
三つの視点で見ること

- ① 身体的側面
- ② 心理的側面
- ③ 社会的側面

これまでの「PDCA サイクル」から「OODA ループ」への転換を



ウーダ  
OODAループ：  
周りの状況に合わせて迅速な行動がとれるサイクル

- 観察 (Observe)
- 状況判断 (Orient)
- 意思決定 (Decide)
- 行動 (Act)

### 2 子どもたちを取り巻く社会の変化

| 変化  | 昔   | 今   |
|-----|---|---|
| 思春期 | 14歳～19歳   | 10歳～24歳   |
| 遊び  | お互いに顔を見てコミュニケーションをとり合わないと成立しない遊び（バーバル及びノンバーバルコミュニケーション重視） | コミュニケーションをとり合わなくても成立する遊び（バーバル及びノンバーバルコミュニケーション無視） |
| 学校  | 人間関係をつなぐ場   | 人間関係が自由化になった場                                     |

成人年齢が下がることで早い年齢から思春期に入り長期化するの配慮が必要。  
プチ反抗期（10歳前後）の関わり方のコツは、褒めて真摯に向き合うことが大切⇒やる気につながる。

コミュニケーションを必要としない遊びが増え人間関係が希薄になっているので、学校現場であえて人間関係を構築する場を設定する必要がある。

※ 成人年齢について

現在は20歳だが、2022年4月1日の民法改正に伴い18歳に変更される

バーバル（言語的）コミュニケーション：話す言葉の内容、手話、筆談など  
ノンバーバル（非言語的）コミュニケーション：身振り、手振り、表情、声のトーンなど

### 3 適切な子ども理解をするための手立て

- ☞ まずは子どもの言動に耳を傾け、客観的にアセスメントする必要がある

教員のメタ認知の必要性：相手を見るときは教員自身が自分をメタ認知できていないと正確に見取れない。自分自身のメンタルヘルスの状態の把握も大切。

- ☞ セルフモニタリングとセルフコントロールを行い、メタ認知を鍛える

おすすめセルフモニタリング～教室に入る前に～

- ① 鏡で自分の表情チェック
- ② 平常心かどうかチェック
- ③ 確認「私は平常心！大丈夫！」と唱える

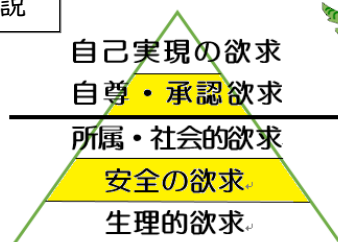


セルフモニタリング：自分の行動や考え、感情を自分で客観視できること  
セルフコントロール：自分の行動や感情を自制できること

- ☞ 子どもに何か問題が起きた時には、まずはマズローの三角形を思い出そう！

どの水準にいるのかを客観的に判断する

マズローの  
欲求五段階説



叱り方・褒め方のコツ

- 見たままの状況をそのまま伝える
- 短い言葉で（具体的に）言う
- 「私はこう思うよ」メッセージを使う
- メモを活用する
- ◎ 本人の行動がなぜダメなのかを理解し、正しい行動ができたらすかさず褒める

- ☞ 家庭訪問の大切さ：状況把握・環境調整・信頼感の獲得

【保護者の話の聴き方ポイント】

- \* 「事実」と「感情」と「思い込み（推測）」を分けて聴く
- \* 保護者の目的を明確にする

リフレーミング：  
ある枠組（フレーム）で捉えられている物事の枠組をはずして、違う枠組で見ること

### 4 適切なコミュニケーションをするための手立て

- ☞ 見方を変えよう！短所を長所に変えてリフレーミングしてみる

- \* 集中できず注意を払えず失敗ばかり ⇒ 好奇心にあふれていて素早く行動できる

- ☞ 話の糸口を探ろう！子どもが興味・関心のあるものに敏感になる

### 5 おわりに 講師からのメッセージ

- \* 常に自分を振り返ろう！
- \* 自分一人で抱え込まない！自分からヘルプを出せる相手を日頃から確保しておく

#### 受講者のアンケートより

私は初任者として担任をする中で、授業に必死になり、児童に注意する時やトラブル解決の時に、児童の背景や要因ばかりを探っていて、自分に原因があると客観視することが何一つできていませんでした。今後は児童との関わり方や見方を改め、「物事や事象を多角的・多面的に捉えること」「教師自身を客観的に見て児童理解を図ること」「叱り方・褒め方のコツ」について学んだことを生かし、児童が安心して学校生活を送ることができる環境をつくり、児童の自己肯定感を高め、クラス全体がつながりをもつ学級づくりを目指していきたいと思いました。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。

